



大いなる一歩

SUMH 理事長 青木 勉

木々は紅葉の賑わいがまし、日一日と秋の装いを深めておりますが、会員の皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

皆様に、朗報をお伝えします。SUMH がカンボジアで行っている巡回診療が、州保健局に認められ、診療した患者さま一人当たり 4,000 リエル（約 \$ 1）の収入が今年 7 月以降入るようになりました。このことは、当会が 2001 年以降行ってきた活動が、カンボジア・シェムリアップ州保健局に極めて高く評価されたことの証であり、メンタルヘルスケアをプライマリヘルスケアに位置付けることにつながる大いなる一歩です。国際的な視野で見ると、メンタルヘルスケアへの経済的支出は、低開発国では国民一人当たり年間 \$ 0.25 未満にすぎません。今回の州保健局の決定が、いかに破格なものであったかお分りいただけたと思います。当会が、グローバルメンタルヘルスの活動の中で、金字塔を打ち立てたと言っても過言ではないと思います。

また来春には、昨年に引き続き、カンボジアへのスタディーツアーを企画しています。リーダーは、カンボジアも含め精神科国際協力経験がわが国で最も豊富な、手林佳正さんが務めてくださいます。ぜひ、お誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。これからも、変わらぬご支援をお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。

I 今井基金事業進捗状況報告

担当者 西尾 彰泰

II スタディーツアー2015参加者からの報告

「途上国・海外の精神医療の現場から学ぶ」

メンタルヘルス診療所しほふあーれ 岩谷 潤

千葉大学看護学部 4 年 熊澤 未有

I 今井基金事業進捗状況報告

担当者 西尾 彰泰

【目 的】

SUMH では、4 年前程前から不定期に、キーパーソンミーティングというものを実施してきました。これは、現地代表ピサル氏の発案によるもので、我々が活動している地域のヘルスセンターにおいて、ヘルスワーカー、村長、宗教関係者、助産師など、地域の“キーパーソン”を集めて、精神疾患について、理解してもらうためのレクチャーや意見交換を行う活動です。このミーティングのおかげで、精神保健

III スタディーツアー2016のお知らせ

編集後記

篠原慶朗

発行: 途上国の精神保健を支えるネットワーク

Supporters for Mental Health; SUMH

という理解されづらい活動が、比較的スムーズに地域に受け入れられたと自負しています。ところが、円安の影響と、当団体の収入低下により、平成 26 年後半から、キーパーソンミーティングの実施を休止せざるをえない状況になっていました。しかし、幸運なことに、平成 27 年度より、今井基金の助成金を受けることができ、キーパーソンミーティングを再開させることが可能となりました。また、対象を一般住民にも拡大し、標準化された質問紙をレクチャーの前後で用いることで、今後の啓発活動の基礎資料を作成することとしました。

【内 容】

SUMH が活動しているシェムリアップ州アンコール
ルチュム保健区、およびクララン保健区における
全 35 カ所のヘルスセンター（参加人数が多い時は、
近くの寺院の集会スペース）において、住民向け精
神保健レクチャーを実施します。その際、レクチャー
の前後で、標準化された質問紙を用いて、精神疾
患に関する知識、および精神病患者に対する意識に
ついて測定を行います。また、前後を比較すること
で、精神保健のレクチャーが全体として有効であっ
たか、どの点が理解しづらかったのか等も分析を行
い、今後のヘルスプロモーション実践等に活用しま
す。尚、本事業の調査部分については、「各国におけ
る地域精神保健医療の成熟道を評価する方法に関す
る研究」として、平成 26 年 9 月に、岐阜大学医学系
研究科医学研究等倫理委員会において承認を得てい
ます（承認番号 26-157）。

【事業進捗状況】

平成 27 年度は、計 8 回の実施予定です。8 月 12 日
に初回の実践を行い、現在（10 月 20 日）までに、
3 回行いました。平成 28 年度は 15 回、平成 29 年
度は 12 回を予定しています。1 回の参加者は、20
人程度が見込まれています。実際に実施をしてみて
わかったことは、字が読めない者が予想以上に多く、
回答を補助する者をつけないければ、時間がかかり
すぎる事が判明しました。そのため、1 回につき最
大 2 名の補助員を雇用することとなりました。



第 1 回の実施の様子

（下写真奥の左に立っているのが報告者）



第 2 回の実施の様子



第 3 回の実施の様子

【本事業の展望】

本事業は、平成 27 年から 30 年の 3 年間で予定して
います。計 35 回、700 人がレクチャーを受けると見
積もられています。今後は、そのデータを解析し、
カンボジアの農村地域における精神疾患啓発プロモ
ーション事業として、他団体が利用できるかたちで
パッケージ化し、カンボジア全土、あるいは他の途
上国への波及を目指しています。

Ⅱ スタディツアー 2015 参加者からの報告

2015 年 2 月 16 日（月）～20 日（金）に実施され
たスタディツアーには精神科医の方や看護学生の方
たち、そしてタイの精神科医の方も参加されました。
今回参加された皆様から感想をいただきました。ツ
アーの様子や楽しさ、そして学びの多さがよく伝わ
ってくる報告です。是非ご一読下さい。

「途上国・海外の精神医療の現場から学ぶ」
メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ 岩谷 潤

2015 年スタディーツアーへの参加はとても貴重な経験でした。関係者のみなさま、ありがとうございました。

日本のなかでも地方で仕事をしていましたので、地域による違いがよく気になります。「同じ日本なのに住んでいる地域がちがうと、どうして治療の場や支援がこんなに違ってしまふのだろう」。そのようなジレンマを感じながらこのツアーに参加しました。

ツアーのプログラムは素晴らしく、SUMH が支援する市街地の病院での外来やディ・アクティビティの見学、車で長時間走った郊外の診療所の見学、訪問でケアを受けている患者さんのご自宅への同行などがありました。いま思うことを 3 点、記させていただきます。

1. よりよい質の精神医療へのアクセスの良さ

郊外の診療所での精神科診療は日数が限られており、診察日にはさらに遠方の方々が乗り合わせなどしながら来院されます。診療所に来ることができない方、必要なところには訪問が行われています。

外来や訪問にも至れず、人知れず困っている方もたくさんいることでしょう。そのような方は日本にもたくさんいらっしゃると思います。

医療が役立つにはまず医療自体へのアクセスのよさが出発点となります。その上でまた大切なのは、より質の高い治療の選択肢へのアクセスをよくしていくことだろうと思いました。医師やコ・メディカルスタッフ、施設などの資源の数や配置、あるいは医療の情報についても、地域のひと全てがよりよい質へとアクセスできるように、というように考え直すことができました。

2. 必要性に応じた治療資源の分布を

訪問で出会った患者さんのなかに、重症な時期から回復され、いまは仕事をされている方がいらっしゃいました。カンボジアで使用できる薬剤は限られています。少なくとも彼は、薬剤の限られた状況でとてもよい回復を示したようです。

また別の方はいまも行動の障がい著しく、そのためにつらい生活を送っていました。彼のもつ疾患はよくあるものではないので、日本にある治療薬がカンボジアでは使用できません。

ひとつの国で使用可能な薬剤を決するには、多岐にわたるステークホルダーとの複雑な経緯があるよ

うです。その複雑さの前でわたしたち医療者は、その国・地域にどの薬の必要性がどれだけ高いのか、疾患とその重症度や治療抵抗性の分布に基づく判断を十分にできているのだろうか。あるいは、薬だけではない治療や資源についても、必要とされるものに合った分布を目指しているのだろうか。少なくとも私には仕事を成り立たせるその認識が足りていないと、自戒を込めて思いました。

3. 異なる国・地域の精神医療に触れる意義

シェムリアップ州で、識字率の低さを聞いて驚きました。医療ニーズが表に出るためには、教育の問題も避けられません。

医療はひとひとの間にしか成立しませんから、社会や文化という土台の上に発展します。日本での地域による違いや、他国の精神医療を見聞することは、私たちが働いている場所で抱えている問題をみる視点を、いくつか追加してくれるように思います。解決にたどり着くというほど大げさなものではありませんが、普段のジレンマに違う角度からヒントをくれる、という経験は私には大きなものでした。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

「途上国・海外の精神医療の現場から学ぶ」

ちば大学看護学部 4 年 熊澤未有

私は看護学部所属する学生で、スタディーツアーのときは 3 年生でした。当時はまだ精神看護の実習を経験していなかったため、精神疾患を持つ患者さんにお会いしたことはありませんでした。知識や経験の少ない私にとって、今回のカンボジアでのスタディーツアーは、驚くことや新しい発見などの連続で、非常に新鮮な経験となりました。

ツアーでは、デイケアや訪問診療を通して患者さんと接する機会が何度ありました。出会った患者さんやそのご家族とは、日本で生まれ育った私と共通する部分もあると感じる一方、文化や考え方に違う点も多いばかりか、共通の言語さえありませんでした。また、精神疾患を持った患者さんと接した経験のなかった私は、初めのうちはどのようにコミュニケーションをとったらよいのかわからずにいました。しかし接する中で、その方々の今まで生きてきた過程や思いなど、私には知りえないさまざまな経験をなさってきて、その方々の「今」があるということを感じました。そして同時に、患者さんたちはみな、「精神疾患患者」ではなく「精神疾患を持ったひとりの人」ということも感じました。

私がこのようなことを感じることはできたのは、初めて訪れた国で言葉も通じない方々と接し、物事を考える基準を失っていたことで、先入観に捉われることなく、出会った環境と向き合うことができたからだと思います。



私は来年から精神科病棟で看護師として働く予定です。今回のツアーの経験を活かして、患者さんに限らずご家族やスタッフも含め、さまざまな人の価値観や文化など、幅広い視点で相手と接することができる人になりたいと思います。

最後に、これから社会に出て行く私に、日本にいては感じることはできなかったであろう貴重な経験をさせていただく機会をくださった SUMH のみなさん、現地のみなさんに感謝申し上げます。

Ⅲスタディツアー 2016 のお知らせ

事務局

本年、好評だったスタディツアーを来年度、2016 年 3 月 6 日（日）～10 日（木）の 4 泊 5 日で開催します。主なツアー内容はシェムリアップ州病院とメンタル・ヘルス・センターの見学、カンボジア SUMH スタッフと共に利用者宅の訪問や巡回診療の同行、伝統治療の視察を予定しています。また、観光名所を巡りながらカンボジアの歴史や社会文化を学んでいただきたいと考えておりますので、アンコールワット遺跡群やクメール伝統織物研究所へも足を伸ばす予定です。

参加費用は 86,000 円（宿泊費・食事・移動費用含む。航空運賃を除く。）です。

お申込み・お問い合わせは先は、手林佳正（心理士）まで。以下の E メールアドレスをお願いします。

E-mail address: shienpsycho@yahoo.co.jp

途上国の精神保健を支えるネットワーク

Supporters for Mental Health (SUMH)

<スタディツアーのご案内>

1. 開催地: カンボジア王国シェムリアップ州
2. 開催期間: 2016 年 3 月 6 日（日）夕方～3 月 10 日（木）4 泊 5 日（予定）
3. 主なツアー内容: ※ツアーは、現地集合・現地解散にて行われます。



シェムリアップ州病院、
メンタル・ヘルス・センター見学



利用者の訪問、巡回診療、
伝統治療を視察



カンボジアの歴史や社会文化を学ぶ:
アンコールワット遺跡群、
クメール伝統織物研究所

費用: 8,6000 円（宿泊費用、食事・移動費用含む。航空運賃を除く。）

5. お申込・お問い合わせ先

手林佳正（心理士） E-mail address: shienpsycho@yahoo.co.jp

SUMH Cambodia

Actual Address,

Mental Health Rehabilitation Center,
in Siem Reap Provincial Hospital,
Mundol Moi, Siem Reap, Cambodia

Postal Address:

P.O.Box 93102 G P O Siem Reap Angkor, Cambodia

**SUMH の会員として、また募金によって
一緒に途上国の精神保健を支えてください。**

【年会費】一般 10,000 円 賛助・学生 5,000 円

【会費・募金の振込先】

銀行振り込みの場合

銀行名: 楽天銀行 第二営業支店(支店番号 252)

口座名: 特定非営利活動法人 途上国の精神保健を
支えるネットワーク

口座番号: 普通 7385345

郵便振替の場合

加入者名: 途上国の精神保健を支えるネットワーク

口座番号: 00170-2-535294

郵便振替は振替用紙に、住所・氏名・Tel & Fax・E-mail・

2015年（平成27年）11月30日（年2回発行） SUMH ニュースレター第44号
会費と募金のいずれか・SUMH へ一言を明記の上、お
振り込み下さい。

SUMH日本事務局

〒130-0013 東京都墨田区錦糸3-5-1

錦糸町北口ビル

TEL 03-3812-0736

HP: <http://sumh.org/>

Mail: info@sumh.org

編集後記

本年度より今井基金を獲得し、新たに現地調査研究にとりかかるなど、当団体も少しずつですが前に進んできてます。共に歩んできているカンボジア現地スタッフの日々の活動が現地でも評価されていることを考えると、私たちも嬉しく思い、継続していく方法を皆で模索していきます。新たなメンバーと共に前進していきたいと思えます。

本年度の一番の悩みは、やはり活動資金でした。会員の皆様からの年会費はカンボジア現地スタッフの活動を支える貴重な活動資金になっています。1人でも多くの方の支援になるよう頑張っていますので、今後とも皆様のご協力とご支援をいただきながら続けていきたいと考えております。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

また、活動内容がより一般の方々の心に届くことを願いつつ、何よりも皆様のご健康とお幸せを祈願してご挨拶とさせていただきます。

事務局担当 篠原 慶朗

ご寄付のお願いです

「年賀状等の、書き損じはがきを寄付して下さい」
皆様が年末作成した際の、年賀状等の書き損じはがきを寄付お願いします。支援活動に有効活用させていただきます